

NEWS LETTER

上越つくしの里



vol. 40

発行 (福)上越つくしの里医療福祉協会

〒943-0109 上越市北新保 55-1

TEL 025-520-3294 FAX 025-520-2582

URL <https://tsukushinosato.com>

MAIL tsukushi@tsukushinosato.com

発行人：川室 優 令和6年3月31日発行

“上越つくしの里”の新たな事業に向かって

令和6年1月1日、新年を迎え「どんな一年になるだろう」と考えていた矢先、“能登半島地震”が発生しました。亡くなられた方々には深く哀悼の意を表すると共に、被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。また、復旧・復興にご尽力されている皆様に敬意を表します。新潟県内においても道路や建物の被害が多数報告されました。当法人では、幸い人的な被害はありませんでしたが、一部の利用者、職員の住まいの大規模修繕が必要となりました。また、大津波警報により、多くの利用者、職員が高台などへの避難を余儀なくされ、テレビから聞こえる『今すぐ逃げて!』というアナウンサーの声で、初めて避難の緊迫感を体験しました。また直江津の関川を遡上する津波の映像を目の当たりにし、改めて自然災害の怖さを実感したところです。

今回の地震の教訓から、当法人が現在作成しているBCP(Business Continuity Plan=事業継続計画)の重要性に注視し、より一層強化すべきであると考えました。BCPとは、企業が自然災害、感染症の拡大などの緊急事態に遭遇した場合において、事業資産の損害を最小限に留めつつ、中核となる事業の継続あるいは早期復旧を可能とする為のものです。つまり平常時に【行うべき活動、緊急時における事業継続のための方法や手段など】を取り決めておく計画です。しかし、この度の地震では、正月休み中で職員が揃うことができず、何より、避難することで自身や家族の命を守らなければならない職員が多くおりました。また、指示命令すべき管理者自身も被災し、避難したことで、様々なことが機能不全に陥りました。今回の経験を基に、今後、職員一同で、より有効性の高いBCP作成と運用を進めていく所存です。

当法人の運営については、法人理念「一人ひとりとのかかわり合いを大切に、誰もが暮らしやすい地域づくりを共に」を達成するために、持続可能な経営基盤の確立を目指した“3か年経営改善計画”の終盤を迎えます。この3年間で、経営の状況も職員の意識も大きく変わり、安定化が図られたことを実感しています。この成果は、多くの皆様からアドバイスやご支援をいただき、職員各々が利用者を第一に考えた支援と経営を意識し、懸命に努力した賜物と思います。特に、令和6年1月19日にご逝去された法人参与の故山崎隆昌様より福祉と経営の両面から賜った多くのご助言は、当法人の大切な宝となりました。心より感謝申し上げますと共に、ご冥福をお祈り申し上げます。

私たちの使命は、BCPの運用や経営改善など様々な取り組みを通じ、利用者の皆様が安心して利用できる事業所、地域から必要とされる事業所を法人・職員で作り上げ、夢のある、意義深い新たな事業に取り組んでいくことです。これから、安定化してきた法人のエネルギーをどのような形で地域へ還元できるか、積極的に工夫を積み重ねていきます。これからも引き続きご支援ご協力を賜りますよう、よろしく願い申し上げます。

～令和の新たな息吹を感じて～ (福)上越つくしの里医療福祉協会 参事 田邊 信

つくし工房・つくしワークトレーニングルーム(分場)

つくし工房では今年度、上越市立諏訪小学校5～6年生との交流を深めました。同校の学校田の田植えや稲刈りに参加させていただいたり、つくし工房へ作業に来ていただいたり、一緒にレクリエーションをする中で交流を深めました。

収穫したお米を使った『米粉のチョコケーキ』を共同開発し、10月に開催された同校の文化祭や諏訪地域のイベント並びにオーガニックフェスタにて販売され、お客様からご好評をいただきました。商品の企画から製造、パッケージデザインまで、つくし工房の利用者の方々と同校の5～6年生が相談しながら取り組みました。

交流を通じて互いに協働する喜びを感じ、『障がい』についての理解が深まるきっかけになれば幸いです。今後とも地域のとりわけ若い世代との交流を積極的に図っていかれたらと思います。



つくしワークショップスペース

つくしワークショップスペース、弁当事業では利用者様の希望・体力等を踏まえ午前午後のシフト制での作業をおこなっております。衛生管理を徹底し時節の食材を使用。お客様の健康を願い製造し1日約100食ほど提供しております。

軽作業事業では今年度企業様より新規委託作業として大葉梱包作業を始めました。利用者様と職員が協力しながら工賃向上を目指し頑張っております。今年度のレクリエーションは、福祉バスを利用して5月は戸隠でそば打ち体験、11月は柏崎の松雲山荘へ紅葉狩りに出かけました。「楽しかった！」との沢山の感想をいただき笑顔あふれるレクリエーションとなりました。これからも作業と楽しみのメリハリを持ちながら活動をおこなっていきます。



好望こまくさ・ひまわり作業所(分場)

好望こまくさでは、昨年度より「就職者の声を聴く会」と題して就職された利用者様より就労の体験談をお聴きしています。実際の体験を聴くことで就労への不安解消や就労に必要なことを考える、とてもよい機会となっています。今年度は、つくし工房から就職された利用者様の体験談もお聴きし、更に充実した会となりました。



作業では、地元の酒造会社様より箱折り作業をお願いしました。また、地元農家様での農作業にも参加させていただきました。新たな作業により地域の方とのつながりができ、利用者様の新たな一面を気付かせていただける機会にもなりました。今後も積極的に色々な活動に参加し、活動をとおして地域とのつながりをより一層大切にしていきたいと思っております。



地域生活支援センターこまくさ

バタバタまつり来場者の方の「作品の製品があったらいいな」という声をきっかけに当事者アート製品作りがスタート。地元企業の方が一緒にデザインを考えてくれ製品作りをしたり、糸魚川市福祉事務所が発行している発達障害相談窓口の啓発カードに使用される等、作品を通して地域の方とつながることができました。他にも公民館で作品を展示していただき、当センターを知っていただく機会にもなったと感じています。

製品づくりや作品展示を通して利用者の方のやりがいにつながり、作品がどんどん増えていきます。販売、写真撮影、作品お届け等、やりたいことが増え活動にもつながりました。今後も作品を通して皆様と一緒に考えながら楽しい街づくりができたらいと思っています。



グループホームつくしの里

グループホームつくしの里では、『私たちにもできる地域貢献活動』として、昨年度からベルマーク集めを行っています。買い物に行き、商品にベルマークがついているかをチェックしながら、みなさんで楽しみながら集め、今年も同じ学校区にある中学校に寄付をする予定です。今年は今のところ昨年より多くのベルマークが集まっています。どれくらいたまるか、みなさんで楽しみにしているところです。その他に、日々の生活で楽しみを持って過ごしていただけるよう、季節に合わせた料理を提供することも大切にしており、10月にはおはぎ作りを行いました。おはぎを一から作るのは全員が初めてでしたが、とても大きな美味しいおはぎが完成しました。これからもみなさんに喜んでいただける企画を考えていきます。



ホームつくし糸魚川

ホームつくし糸魚川では、コロナ感染症対策のため近年入居者合同でのレクリエーションは中止せざるを得ない状況でしたが、5類となり世の中の規制も緩和されてきたことから6月には上越市のイオンでの買い物、七福の湯での入浴等のお出かけレク、12月にはいっさくでの忘年会を行い、仲間との久々の外出や忘年会で楽しい時を一緒に過ごすことができました。帰って早々「次は〇〇に行きたい」「今度はいつあるんだね」と早くも次を期待する声が聞かれました。まだまだ感染症対策は気が抜けませんが、当たり前前の日常を少しずつ取り戻す実感した参加者の笑顔でした。

グループホームはただ一緒に住んでいるだけではなく、同じ住居に住む仲間との「かかわり合い」を大切に、運営を行っていきたくと思っています。時に対人トラブルも発生しますが、相手への理解や許し、妥協を生み出すためにも。日々の生活やレクリエーションに職員もその「かかわり合い」に参加させていただき、より居心地の良いグループホームになればと思います。

つくしセンター

つくしセンターがおこなう事業は、大きく分けて3つ。1つは、サービス等利用計画の作成などを行う指定特定相談支援事業・指定障害児相談支援事業。令和5年度は200名を超える方々を担当させていただいています。2つ目は、指定一般相談支援事業。長期にわたり精神科病院に入院している方などに、地域で暮らすために必要な支援をおこないます。そして3つ目は、地域活動支援センター事業I型。余暇活動支援や地域社会との交流促進、啓発などの活動をおこなっています。



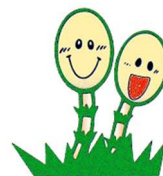
今年度の啓発活動は、「こころのバリアフリーミーティング」を開催。「親亡き後も安心して地域で生活するために」をテーマに、当事者や家族、成年後見人より話をいただき、生活費の確保・生活力・地域の支えなどの内容がキーワードとなりました。地域社会に優しく受け入れられ、時には誰かの助けを借りながら自分が希望する暮らしを送ることができれば、こんな安心なことはありません。誰にとってもこの地域社会が“やさしいまち”になるよう、つくしセンターもその一助を担うべく、役割をしっかりと果たしていきたいと思っています。



ホームページ Facebook インスタグラム



こちらのQRコードを読み取ると
つくしの里医療福祉協会の
ホームページ、インスタグラム、
Facebookに繋がります。
是非ご覧ください。



ご寄付・寄贈品のご報告 (令和5年度順不同)

ご寄付…山形要人様、ぬくもりの家、蟹江則子様、山口和久様、(有)虻川・インテリア、虻川知久様、虻川まき子様、虻川宏様、浄國寺、(株)高菱、久保田建設株式会社、上島事務所、(株)タマルヤ、(有)山田損保事務所、(福)上越福祉会、(株)横瀬オーディオ、口福の店魚住かまぼこ店、(株)カネタ建設、大栄建設株式会社、笹川芳、(株)福田組上越営業所、上越信用金庫、大竹洋子様、上越マテリアル株式会社、(株)丸互、(株)東光クリエート、福田道路株式会社上越支店、(株)Wastec ENERGY、ワタキューセイモア株式会社新潟営業所、大竹獣医科医院、(株)BSN アイネット上越支社、(一社)上越医師会、(株)パティオ、(有)ギャラリー様、(株)関原工業所、(有)塚田タイヤ商会、日清医療食品株式会社中部支店

寄贈品…つくしセンターにぬくもりの家様より除雪機
つくしワークショップスペースに高菱市川様より米 30 kg
好望こまくさに市民の皆様よりタオル、布、毛糸、石鹸、砂糖
その他、タオル、マスク、英字新聞等の物品を多数頂戴しました。



皆様からのご厚意に、こころより感謝申し上げます。

つくしの里医療福祉協会 令和5年度法人研修

7月26日、「意思決定支援」に関する研修をおこないました。

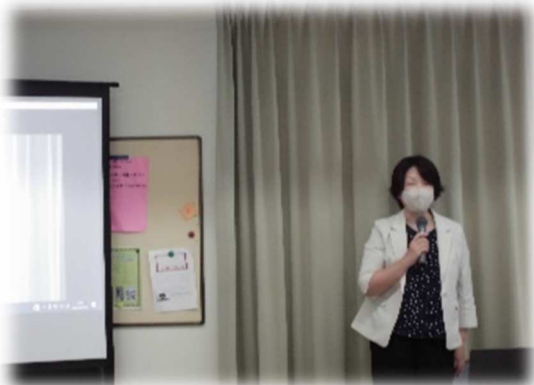
一般社団法人日本意思決定支援ネットワーク理事であり、相談支援センターそらうみ管理者の本間奈美様に講師をお願いしました。

法人職員全員を対象とした研修であり、様々な立場の職員が参加していたことから、講師の本間先生にはとてもわかりやすく丁寧にお話しいただきました。

人生における意思決定とは何か。どのように生き、どのように死ぬか。誰とどこに住み、どんな暮らしをするのか。障がいのある人が、私たちと同じように、大切な場面での意思決定ができていのか、障がいがあるからといって周りの人が決めてしまっていないか、との問いに皆がハッとさせられました。

話せないから、言葉がないから意志がないと思ってしまうたり、意志が現れていても障害や過去の失敗等を理由に意思を決める能力はないと判断してしまったりするのではなく、日々のかかわりの中で現れている思いを察したり、態度や表情、ちょっとした言葉からその人の想いに気づくことのできる感性など、人を支援するうえで大切な力を学ぶことができました。

「あなたも、あなたの支援を受けている人も、一度限りの人生を生きていることを忘れないください。」という本間先生の言葉が、多くの職員の心に響き、定期的に「意思決定支援」について学びたいという感想へとつながっています。とても実りのある法人職員研修となりました。

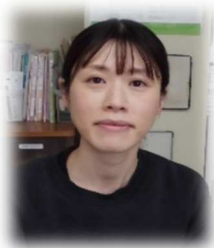


つくしの里医療福祉協会 令和4・5年度苦情受付

事業所	分類	苦情内容	対応	
令和4年度苦情受付	つくしワークショップスペース	職員の対応	特定の利用者との関係、作業の負担感。	職員の利用者への接し方については研修の回数を増やすなどして支援の向上に努めることとする。 作業の負担感については休憩時間を増やすなどして対応させていただく。
	つくしセンター	職員の対応	電話でそっけない対応をされ、気分が落ち込んだ。	センター全体の問題として受け止め、丁寧な対応をしていくよう話し合い謝罪をした。
	つくし工房	職員の対応	声をかけたのに返答がなかった。気持ちいい挨拶を返してほしい。	お気持ちを受け止め、安心して利用できる環境をスタッフ全員で醸成する。 障害の特性や接遇を学ぶ機会を継続的に確保する。
	つくし工房	イベントの開催と受入れ	交流の目的が良くわからない。感染症の不安もある。騒がしいので作業に集中できない。	企画の早い段階で利用者の皆さんに趣旨を口頭、文書配布、刑事等で明確にする。地域との交流やアプローチは重要な活動の一つであることを丁寧に説明する。交流の苦手な利用者に配慮し多様な選択肢を準備する。

事業所	分類	苦情内容	対応	
令和5年度苦情受付	つくしワークショップスペース	職員の対応	作業中に職員かきつい口調で注意された。	不快な思いをさせてしまったことを謝罪する。 詳しく話を聞き、作業に対しての緊張感から職員の言動に不安感を抱いていた。担当作業のプレッシャーがつよく緊張状態にあったため環境調整を行い、違う作業を担当していただくことになった。
	つくしワークショップスペース	職員の対応	職員からのいろいろと作業を任せられて負担感を感じる。	負担をかけてしまったことについて謝罪する。体調面や精神面を考慮させていただき作業が負担にならないよう配慮することを約束する。 コミュニケーションをしっかりとほかり体調確認して作業していただくこととした。
	つくしセンター	職員の対応	ロッカーの鍵を持って帰っていないか確認をされた。返したと伝えたが不愉快であった。	職員間の連携ができていなかったため、2度聞いてしまい不快な思いをさせてしまったことを謝罪する。
	センターこまくさ	職員の対応	担当職員が付いているが、過去の対応の事を思い出すため担当を代えてほしい。	担当を付けている理由を説明するが理解を得られなかった。苦情解決第三者委員も同席の元、再度説明を行った。 担当制ではなく、ご本人がその時に相談したい職員を指名し対応していくことで了解を得る。
	好望こまくさ	職員の対応	物品の置き場所について大きな強い口調で指摘された。置き場所についても知らなかった。謝罪時に忘れてと言われた。	不快な想いをさせてしまったことを謝罪する。 職員の態度や伝え方について、十分気を付けていくことをお伝えする。 謝罪についても、再度の話し合いを提案するが精神的な負担からお断りがあった。事業所内で利用者様への適切な対応について十分に気をつけていくこと、報連相を徹底し利用者様の混乱がないようにすることを確認した。

つくしの里医療福祉協会 令和5年度職員紹介



つくしセンター
松村 美希



つくし工房
鳥島 佳祐



ホームつくし糸魚川
田原 芳子

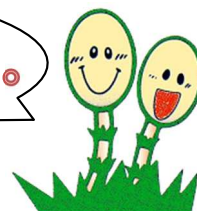


ホームつくし糸魚川
古市 奈保



ひまわり作業所
齋藤 さつき

宜しくお願い致します。



— 編集後記 —

今年度は、コロナ感染症が第5類に移行となり地域の方との交流や、利用者様の外出行事など楽しい活動を再開することができました。活動の様子はSNSでも発信をしております。是非ご覧ください。今後も当法人の活動をたくさんの皆様に知っていただけるよう取り組んでいきたいと思っております。

(ニュースレター編集担当 岡尾、原田)